

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立二葉小学校
校長名	山崎 隆

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">平均正答率は、全学年国語と算数の教科で全項目上回っている。「主体的に学習に取り組む態度」は、国語と算数で特に全国平均を大きく上回っている。校内研究の成果ととらえることができる。	<ul style="list-style-type: none">同一集団の経年変化（6年生）を分析すると、国語・社会・算数・理科は横ばいとなっている。一定の水準を保っているものの、向上はしていない。記述式の問題で正答率が下がる傾向がある。4年生社会、5年生理科の「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均正答率より低い数値となっている。全国平均以上にすることが課題である。

(2) 意識調査結果から※第6学年の意識調査より

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">ノートの取り方について自分なりの工夫をしている児童の割合が全国平均を10ポイント以上上回っている。「好きな教科や授業がある」では、肯定回答が9割6分に届いている。	<ul style="list-style-type: none">自分で学習計画を立てて取り組んでいる児童の割合が67%にとどまっている。学校の授業の予習や復習をしている児童の割合が全国平均を下回っている。B・C層の児童の自己肯定感が低い傾向にある。教師が中間層の児童に肯定感をもてる働きかけをする必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味をもったことについて調べようとする気持ちが高まっている。学習したことを友達に説明する学習活動を意欲的に行っている。考えを交流しながら課題を解決し、学習したことを振り返って次の学習に向かう意識が高まってきている。	<ul style="list-style-type: none">家庭での学習習慣に差がある。宿題の在り方を見直し、学習の個性化を図る必要がある。話し合い活動で、発言する児童が一部に偏っている傾向がある。伝える力を伸ばしていくことと同時に、協働的な学習を推進する授業力を付けていくことが課題である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習規律の徹底と学習意欲の向上

- 「のびる二葉の子」を基に、基本的な学習規律の定着を図る。また、個別に使用できる学習用具や器具の充実を図る。
- 学級全体で話し合ったり伝え合ったりする活動を取り入れ、自信をもって発言したり、考えを深めたりできるようにする。言葉で伝えることが苦手な児童に対しては、ロイロノートを活用したアプローチを図る。
- 「学年×10分+10分」を家庭学習の目標時間として保護者に協力をいただき、学習習慣の定着を図る。「宿題」の在り方を見直し、ミライシードを基本とした基礎基本の定着の学習をベースに、学習の個性化を図れるような取組について検討する。
- 授業の終末には、本時で何を学んだか（知識の整理）、どう考えるか（思考の整理）を意識した学習感想を書き、学習内容の定着を図ったり、次時への意欲付けをしたりする。

(2) 個別指導の工夫

- 朝学習や休み時間、長期休業期間を活用し、テストの見直しや補充的な学習など、個に応じた指導を行う。
- マス計算、視写、既習の漢字の読み書き、基礎計算、都道府県名などに取り組みさせる。
- 東京ベーシック・ドリル、問題データベース、ミライシードを活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。児童の学習状況を捉え、既習内容を活用した、発展的な課題に取り組みさせる。
- 「ぐんぐんのびる二葉タイム」（算数の基礎計算）で対象児童を重点的に指導する。

(3) 教員の授業力向上

- 校内研究を通し、「学びに向かう力の育成」を視点とした授業改善に取り組む。
- 問題解決型のプロセスで、「見通し」と「振り返り」を重視し、自分の言葉で整理したり、次の学習のイメージをもったりする時間を設けるなどの授業改善を行う。
- 教科担任制等推進校についての取組を進める中で、国語・社会・理科の専門性を向上させる校内研修を行う。
- 教科担任制実施以外の学年では、教科の専門性の高い教員と連携し、授業で使用する資料の選定や、実験道具等の準備を学年の複数の教員で行い、活用方法や授業の進め方等を十分に確認する。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全教科の全観点において、全国平均+5ポイント以上を目指す。
- ・全学年全教科において標準スコア55を目指す。
- ・i-Check 自己肯定感（7）の肯定回答が70%となるようにする。